

『異常巻きアンモナイト』

東海化石研究会

アンモナイトは古生代デボン紀に現れて、中生代白亜紀に絶滅した頭足類の仲間です。アンモナイトの仲間には現世のイカやタコ、それと殻を持つオオムガイがいます。

アンモナイトもオオムガイと同じような殻を持っていて、その殻は平面状に螺旋に巻いています。

しかし、中生代白亜紀に入ると、巻いた殻が緩ゆるんだ異常巻きと呼ばれるアンモナイトが多く見られるようになります。

今回、日本各地から見つかった異常巻きアンモナイトの化石を展示します。兵庫県南あわじ市、和歌山県有田郡、静岡県浜松市、長野県伊那市、岩手県田野畑村、北海道各地で産出した標本です。

リュウエラ リュウ (中生代白亜紀)
北海道小平町達布



スカラリテス スカラ (中生代白亜紀)
北海道小平町達布



ユーボストリコセラス ムラモトイ
(中生代白亜紀)
北海道小平町達布



プラピドセラス シグモイダーレ
(中生代白亜紀)
兵庫県南あわじ市伊加利

